

# 令和7年度 授業改善推進プラン

担当教科（ 国 語 ） 学年（ 1 学年 ）

## 学力調査・アンケート等の課題分析

概ね満足できる結果であったが、質問項目にある「目標が示されている」、「学習内容を振り返る場面がある」に対して、「どちらかといえば当てはまらない」、「当てはまらない」が、それぞれ合計14%という結果になっている。目標や振り返りはしっかりと行っているので、生徒に意識させる目標の提示、振り返りを行っていく必要がある。

また、「自分の考えを書いたり、共同での活動、話し合い活動が与えられたりしている」については、「あまり当てはまらない」が17%、「当てはまらない」が2%となった。このことは入学したばかりの1年生に対して、授業規律の遵守と話し合い活動などを減らし中学校での基本的な国語の学習方法の定着を優先させたためである。

## 授業等の課題分析

新入生ならではの元気と活発さがあるため、とても積極的に意欲的に授業が受けられている。発問に対する反応もとても良く、この積極性は今後も維持させていきたい。

中学校の国語の学習方法を定着させるために、「物語」や「説明的文章」、「詩」や「文法」などに力を入れているのと、授業規律を守らせることを優先しているため、話し合い活動などは2学期から増えていく予定である。



## 目指す授業

何を学ぶのか、何を学んだのかが明確で、継続して積極的に取り組める授業



## 授業改善のための具体的な方策

- ・何を学ぶのかを明確にするため、目標をプリントに示したり、口頭で繰り返し確認したりする。
- ・何を学んだのかを明確にするために、振り返りを行う時に目標を再度確認したり、振り返りの時間を分かりやすく区切ったりする。
- ・継続して積極的に授業に取り組めるように、生徒たちの自己肯定感を高めていく。そのために発問に対して間違えたとしても全て否定するのではなく、正解となる要素が生徒が答えた解答にも含まれていることを説明する。また、良い間違いと悪い間違いがあることを説明し、良い間違いは積極的に褒めていく。

# 令和7年度 授業改善推進プラン

担当教科（ 国 語 ） 学年（ 2 学年 ）

## 学力調査・アンケート等の課題分析

概ね満足できる結果であったが、質問項目にある「授業に積極的に取り組んでいる」では、「どちらかといえば当てはまらない」が14%、「『学ぶ楽しさ』を感じる」では、「どちらかといえば当てはまらない」が11%、「当てはまらない」が2%あった。このことは①授業内容が高度になったことと、②指導者が授業中に意識して、難しい言葉や論理構成の話をしているからであると思われる。②のように行っている理由は受験への対応や学力の向上を狙ってのことである。

## 授業等の課題分析

授業は基本的に静かに集中し発問に対する反応も良いので、より積極的な授業への取り組みを期待している。しかし、国語への自信のなさからか、もう一步踏み出せないようである。授業直後に行う小テストでは良い得点を取る生徒が多いものの、家庭学習が重要となる定期考査になると点数が伸び悩む生徒が多い。このことから授業では理解できるが、復習がメインとなる家庭での学習が不十分なため定期考査で点数が取れないのではないかとと思われる。また、国語への自信のなさからテストという緊張した場面で実力が発揮できていないものと思われる。



## 目指す授業

より積極的に授業に取り組み、家庭学習の重要性を理解し、国語に自信を付けさせる授業



## 授業改善のための具体的な方策

- ・より積極的に授業に取り組みさせるために、タブレットを使用しながら自分の意見を発表する授業を行う。
- ・家庭学習でタブレットを使いながら自分の意見をまとめさせる。
- ・「学ぶ楽しさ」を高めるために、自由な意見が発表できるような課題を設定する。
- ・自信のない生徒も積極的に授業に取り組めるようにグループでの活動を行い、苦手なところをお互いにカバーできるような体制を整える。その上で、少しずつ国語に対する自信を付けさせていく。

# 令和7年度 授業改善推進プラン

担当教科（ 国 語 ） 学年（ 3 学年 ）

## 学力調査・アンケート等の課題分析

各項目ともに概ね満足できる結果となっているが、課題として挙げられるのは「授業のはじめに、目標が示されている」について、「どちらかといえば当てはまらない」が14%となっていることである。また、「わかった『できた』と感じる機会があり、分かりやすい」は「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」を合わせると11%あり、「『学ぶ楽しさ』を感じる」は「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」を合わせると14%となっていることである。

「目標が示されている」については、プリントに目標を示しているが、気付いていない生徒がいるものと思われる。「わかった『できた』と感じる機会」と「『学ぶ楽しさ』を感じる」については、内容が高度になったことと、受験を意識した授業内容となっているので、理解と楽しさが低下したものと思われる。

## 授業等の課題分析

生徒たちは理解力があり、高度な論理的な内容にも積極的に取り組もうとしている。授業中の発問に対する反応も良く、意欲的に取り組んでいることが分かる。ただし、授業内容が難しいと感じている生徒もいるため、受験を意識しながらも基礎的な復習も取り入れていく必要がある。

## 目指す授業

受験を意識しつつも、「学ぶことの楽しさ」や「国語力は生きる力となる」ことを実感させる授業

## 授業改善のための具体的な方策

- ・ 授業の目標はプリントに示し口頭でも伝えているが、さらに意識させるため、授業の振り返りでも授業目標を確認させる。
- ・ 「学ぶことの楽しさ」や「国語力は生きる力となる」ことを実感させるため、国語と生徒たちの実生活との間に関連があることを説明していく。また、進路を意識している生徒が多いため、生徒たちの将来と国語力との関連性についても説明していく。